

1 概要

- (1) 内政では、ピネラ大統領が年次教書演説を行った他、新政権発足後100日の評価がなされた。また、5月のAdimark GfK社の世論調査が発表され、大統領支持率は50%（前月比－4ポイント）となった。
- (2) 外交では、アンブレロ外相が、米国（第48回米州機構総会出席）、メキシコ（太平洋同盟外相会合出席）、及びパラグアイ（メルコスール首脳会合に代理出席）を訪問した。

2 内政

(1) 2018年大統領年次教書演説

1日、ピネラ大統領は議会において本年の年次教書演説を約2時間にわたり行った。

ア 第二次「ピ」政権下で最初の年次教書演説となった今回演説は社会政策（児童、教育、年金等）及び経済政策（インフラ投資、税制改革等）への取り組みを強調する内容となった。但し、今後の政府の方針については、政権公約で発表されていた政策の繰り返し及びバチェレ前政権のイニシアティブの焼き直しが多いとの指摘も見られた。

イ 「バ」前政権の批判を行い、現政権発足後の成果を強調する場面が目立った。

ウ 選挙時のマニフェストにおいて「ピ」大統領は法人税をOECDの標準税率に近づけることを公約していたが、現行税率を維持するとした。

エ 外交分野に関しては、ボリビアの「海への出口」問題につき、正当な権利を強く主張すると述べたことに加え、アルゼンチン及びペルーといった近隣諸国との関係強化、さらに太平洋同盟を含むその他の世界各国との関係構築や協定（TPPの承認、英国及びインドとの自由貿易協定、中国及びEUとの協定）の強化に触れた。さらにG20サミットや、当国がホスト国となる2019年APECなど、様々なフォーラムへの参加意欲を示した。

(2) Adimark GfK 社の世論調査（5月）

8日、当地主要調査機関 Adimark GfK 社は5月の世論調査結果を発表した。

●大統領（政権）支持率

支持：50%（前回比－4ポイント）、不支持：40%（前回比＋10ポイント）

●所得階層別大統領（政権）支持率

富裕層：61%（前回比－2ポイント）、中間層：56%（前回比－1ポイント）、

貧困層：42%（前回比－8ポイント）

(3) ピネラ政権発足後100日の評価

19日、ピネラ政権は発足後100日を経過した。全体としては肯定的に評価され、国民の関

心が高い敏感な課題に取り組み、横断的な合意を求めて一部の野党とも対話を持ち、経済運営に関しても市場経済に良い影響を与えたとされている。

「ピ」政権は、発足後100日間に、「ピ」大統領が就任演説で国民に対して提案した5つの合意を具体化し、関連する一連の政策を進める為に5つの委員会を設け、各省庁の横断的対応、連携の強化を指示した。

経済界は「ピ」政権発足後の100日間を肯定的に評価し、特に、投資誘致、生産性向上の促進、国家の近代化及び税制改革への取り組みを高く評価した。

(4) 外交とAPEC2019に関するフォーラム

26日、アンプエロ外相は、ビニャ・デル・マルで開催された外交とAPEC2019に関するフォーラムに出席した。

「ア」外相はラテンアメリカ地域内の他国との関係を重視し、地域統合への努力を続けることを強調するとともに、ベネズエラ危機への積極的関与を引き続き行う旨述べた他、来年11月にチリで開催されるAPEC2019の重要性について発言した。

(5) アラウカニア州における警察軍特殊部隊導入

28日、政府はアラウカニア州を中心とする南部において頻発する先住民マプーチェによる権利回復運動に対して、警察軍特殊部隊の導入を発表し、発足式にピニエラ大統領等が出席した。

(6) アラウカニア州における公共投資及び民間投資誘致

28日、ピニエラ大統領は、第6回アラウカニア州経済委員会(ENELA)の開会式に出席し、2018-26年に同地域に国内外から160億ドルの民間投資を誘致すると述べ、右投資額は今後の経済情勢により増加の可能性もあるとした。さらに、公共投資について、今後8年間で80億ドルの割り当てを行う旨改めて言及した。

3 外交

(1) チリ政府要人の外国訪問

ア アンプエロ外相の第48回米州機構(OAS)総会への出席

4日及び5日、アンプエロ外相はワシントンにて開催されたOAS総会に出席し、ベネズエラ及びニカラグア問題について積極的に発言した。対ボリビア問題に関して、ボリビアのワナクニ外相の発言を受け、「ア」外相は、チリ・ボリビア間の二国間問題について本会議において言及することは、適切ではない旨発言し、両国間に領土問題は存在しないとの従来からのチリの立場を繰り返して主張した。

イ アンプエロ外相の太平洋同盟外相会合への出席

15日、アンプエロ外相はメキシコシティーにて開催された太平洋同盟外相会合へ出席し、「太平洋同盟戦略ビジョン2030」策定に関して議論した他、太平洋同盟とメルコスールの統合アジェンダ推進に関する具体的内容について7月24日にプエルト・バジャルテ(墨)で開催される太

平洋同盟首脳会合にて検討される旨言及した。

ウ アンブエロ外相のメルコスール首脳会合への出席

18日、アンブエロ外相はアスンシオンにて開催されたメルコスール首脳会合へピニェラ大統領の代理として出席した。同会合において、加盟国首脳より、太平洋同盟とメルコスールの統合アジェンダ推進の重要性についての同意が得られたことを受け、「ア」外相は、引き続き統合へ向けての努力を行う旨述べた。

(2) チリ外務省声明

ア グアテマラにおける火山噴火被害に対する見舞い

4日、外務省は、グアテマラにおける火山噴火に対する見舞いの意を表明した。

イ ニカラグアにおける暴力行為に対する懸念の再表明

13日、外務省はニカラグアにおける暴力行為に対し、改めて深い懸念を表明関する声明を発出した。

ウ 米朝首脳会談

18日、外務省はシンガポールで行われた米朝首脳会談に関する声明を発出し、満足の意を表明した。

(3) 第8回日チリ政策対話

25日、サンティアゴにおいて、第8回日チリ政策対話が開催され、日本側から、中前中南米局長、平石駐チリ日本大使他、チリ側からトーレス外務次官代理他が出席した。